

朝日新聞という発信の場を失った2001年の秋、大阪大学大学院での教え子が「ゆき・えにしネット」というホームページ (<http://www.yuki-enishi.com/>) を作ってくれました。そのホームページ中で「くすりの部屋」「ホスピスケアの部屋」から始め、部屋数を少しずつ増やしてきました。いま数えたら、51 部屋になっています。

最近、建て増しした部屋が「精神病院の闇」と「子宮頸がん予防？ ワクチン」です。この2つ、無関係にみえるのですが、実は共通点があります。生命や人生の質に甚大な被害があるというのに、マスメディアが報じないのです。やむなく、この部屋に「本当のこと」をアップして、通称「えにしメール」で広めています。

マスメディアが報じない理由は明快です。私の推測ですが、子宮頸がんワクチンの場合は、大広告主の製薬会社から強い要請があり、それに逆らい難いのです。報道各社の社内では公然の秘密です。私が新聞社にいたころにはありえなかったのですが、経営が苦しくなったために、従わざるを得ないようなのです。

報じなければ、人々はごくごく初歩的なことも知りません。「ワクチンで防げるタイプのウイルスは一部にすぎない」「乳癌、大腸癌、肺がんの方が、女性にとってずっと怖い」「子宮頸がんウイルスはコロナのような空気感染はしない」「子宮頸癌は検診を受ければ前癌病変で発見されるので赤ちゃんも産める」「ワクチンで防げるウイルスの型は限られているので、接種しても2年に1回の検診は必要」などなどです。

ワクチンの副反応の疑い報告は100万回の接種あたり、風疹 28.5、日本



医学ジャーナリストって？

大熊由紀子
(国際医療福祉大学大学院教授、
元朝日新聞論説委員)

脳炎 23.9 に比べて、子宮頸がんは「355.8」とケタ外れです。これまでのワクチンと違って副作用が多彩で、しかも、何年もかけて現れることは、医師にさえ知られていません。

ワクチンのために高次脳機能障害になって人生が全く変わってしまった女性に、何人も会いました。海外でも同様な被害が出て裁判も起きています。詳しくは、<http://www.yuki-enishi.com/kusuri/keigan-00.html> をご覧ください。

精神病院も日本では問題山積です。円グラフは昨年、日本障害者協会代表の藤井克徳さんに依頼して調べ

ていただいたデータです。なんと、OECD 諸国の精神科ベッドの37%が日本にありました。

日本にだけ重篤な精神病が流行しているわけではありません。必要もないのに入院させられたり、退院できないでいたりする人が大勢いるのです。日本以外の国なら「昔話」になってしまった認知症の人の精神病院入院が、年々増え続けています。これは日本の精神科ベッドが37%にも増えた一因になっています。

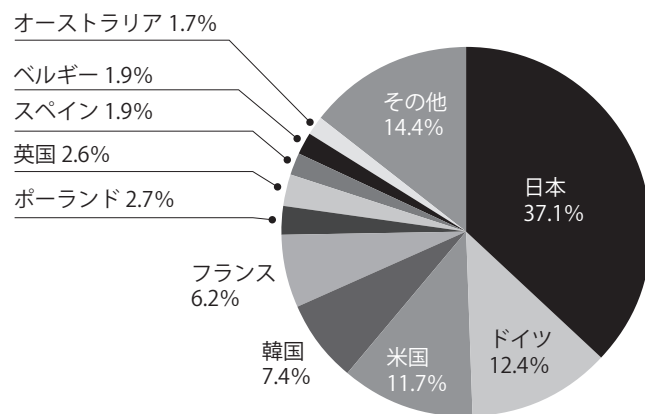
今年2月、NHKは1年半にわたる綿密な取材をもとに「ルポ・死亡退院」を放映しました。ただ、これに続く報道は「看護師逮捕」などの警察発表ものが小さく報じられるだけです。

精神病院の闇は闇のまま、です。

分かりやすく医学解説する人たちはとても大切です。

でも、それだけでなく、筆のたつ医師を超える「視野」と「調査能力」と「患者の身になる想像力」を身につけた医学ジャーナリストが、日本医学ジャーナリスト協会を拠点に増えていくことを願っています。

OECD加盟国 精神科病床数比較 (推定)



作成:藤井克徳/佐野竜平 (2022年8月)